

日本原子力学会 第 135 回倫理委員会

議事録

1. 日 時：2022 年 12 月 14 日（水）9:30～12:00
2. 場 所：Web 会議
3. 出席者：大場委員長、福家副委員長、神谷幹事、池田委員、伊藤委員、小林委員、手柴委員、中野委員、中村委員（委員 12 名中 9 名出席）
岩城特別委員、後藤特別委員、佐藤特別委員、山岡特別委員

4. 資 料：

- 倫 135-1 前回議事録（案）
- 倫 135-2-1 倫理委員会活動計画
- 倫 135-2-2 倫理委員会役割分担表
- 倫 135-3-1 2023 年春の年会企画セッション提案書
- 倫 135-3-2 倫理委員会 2023 年春の年会 企画セッションに係る企画・準備について
- 倫 135-4 研究機関の安全文化醸成活動について

5. 議事概要：

(1) はじめに

大場委員長から、大家委員の退任について報告があった。

(2) 前回議事録について

神谷幹事から資料 135-1 に基づき説明があり、一部誤記を修正する前提で了承された。

(3) 活動計画および役割分担について

福家副委員長から資料 135-2-1、135-2-2 に基づき説明があった。主な議論等は以下のとおり。

- ・ミニ講演会については、今後、適宜計画していく。
- ・倫理規程制定 20 年企画関連は、シンポジウムの結果概要の倫理委 HP への掲載、学会誌への記事投稿の校正まで済んでおり、これで一区切りとなる。
- ・2023 年春の年会企画セッションの主担当は、神谷幹事が担当することとなった。
- ・企画セッションの担当に関して、副担当がその次の年会・大会の主担当となる（主担当となる前の年会・大会の副担当となる）やり方にして、学会事務局との連絡にも習熟していく方式がよいのではないかとの提案があり、特段の異議はなく、今後、決まっていない 2024 年春の年会以降の主担当を具体的に決めていくこととした。
- ・上記に伴い、2023 年春の年会の副担当は中野委員とし、講師紹介の経緯も踏まえて大場委員長も副担当とすることとした。
- ・技術倫理協議会のシンポジウムは 12/8 に開催済み。

(4) 2023 年春の年会企画セッションについて

神谷幹事から資料 135-3-2 に基づき、準備状況について説明があった。主な議論等は以下のと

おり。

- ・提案書（資料 135-3-1）が採択され、招待講師の了解も得られている。日程は1月上旬に決定予定。
- ・会員外の招待講師なので、学会規程に基づき謝礼をお支払いすることの提案が幹事からあり、異議なく了承された。

(5) 研究機関の安全文化について

伊藤委員から資料 135-4 に基づき、前回からの修正点等について説明があった。

本件については、委員会大でレビューすることとし、本委員会終了後に、伊藤委員から1月10日期限内で依頼することとした。主な議論は以下のとおり。

- ・原子力機構殿の状況は検討の題材であること、委員会の考察は原子力機構殿に対してではないこと等、誤解のないような記載にしていく必要があるのではないか。また、委員会として検討した内容が明確に識別できる記載にした方がよい。

(6) 倫理委員会のあり方等について

大場委員長からの問題提起（前回委員会資料倫 134-2-3 参照）に関して、前回に引き続きフリーディスカッションを行った。次回委員会でも引き続き議論することとした。

また、委員会として、理事会で議論していただきたい課題等があれば整理していくこととした。

なお、理事が委員長を務めている常置委員会は、理事会の際に状況報告がなされるが、本委員会は委員長が理事ではないので十分な報告がなされていない。この状況を踏まえ、委員会に出席した理事委員（あるいは特別委員）から鋭意報告いただくことがよいのではとの問題提起があった。

(7) その他

- ・神谷幹事から、学会誌特集企画「1F 事故を経てこれからはすべきことは何か、1F 事故の何を次世代に伝えるか」（仮題）に関して編集委員会から委員長宛てに寄稿依頼があったことの紹介があった。本件、委員長個人の見解として寄稿することとするが、倫理委員会委員長の肩書での寄稿となるので、寄稿案は適宜共有することとした。

6. 次回：来年2月中旬の開催として、別途調整することとした。

以上